

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



Topics

表紙：パキスタン ラホール城

JDS留学生と京都市・信用金庫関係者との交流会を開催

◆ セネガルJDS留学生がハルトプライズ（Hult Prize）を受賞

◆ 活躍するJDS留学生（カンボジア・ラオス）

～ひろしま留学大使の活動を終えて～

◆ ほっとひと息：パキスタン

JDS留学生と京都市・ 信用金庫関係者との交流会を開催

2026年6月15日、京都市内において「JDS留学生×京都市・信金関係者交流」イベントを開催しました。本取り組みは、JICA関西センター企業連携課からの紹介を契機に、JICE、京都市および信用金庫が連携しながら企画・検討を重ねて実現したものです。各国の中央銀行職員であるJDS留学生在が、日本の金融機関の役割やさまざまな取り組みへの理解を深めるとともに、将来を見据えた国際的なネットワークの構築を図ることを目的としており、今回が初めての実施となりました。



参加者全員で記念撮影

今回の取り組みは、京都市および信用金庫にとっては、自らの地域支援に関する取り組みを海外の金融関係者へ発信する機会となりました。また、留学生との意見交換を通じて多様な価値観や視点に触れるとともに、各国の金融機関を取り巻く現状や課題への理解を深めるなど、人材育成の観点からも有意義な機会となりました。

参加したJDS留学生からは「今回築いたつながりを活かし、今後も金融、顧客サービス、コミュニティ開発に関するアイデアや好事例を共有していきたい。母国と日本の組織間の協力関係を発展させ、相互理解の促進と二国間関係の強化に貢献したい」といった声が寄せられました。信用金庫職員からも「若手職員にとって大変貴重な経験となった」「将来のネットワーク形成にもつながる有意義な機会であった」との意見が聞かれました。

今回の取り組みの成果を踏まえ、JICEは、ご協力いただいた京都市および信用金庫各社との連携を今後も継続し、同様の取り組みを積極的に展開していく予定です。

当日は、6カ国(※)から計13名のJDS留学生在が参加しました。信金中央金庫、京都中央信用金庫、京都信用金庫、京都市の各担当者による講義のほか、京都中央信用金庫が出資した地域商社である京都アンプリチュード株式会社や、京都信用金庫が運営する共創施設「QUESTION」などの施設見学を行い、参加者は、各信用金庫や京都市が地域の中小企業や伝統産業の担い手支援において果たしている役割について理解を深めました。

(※)カンボジア、キルギス、タジキスタン、バングラデシュ、ベトナム、ラオス



信金中央金庫による講義

セネガルJDS留学生がハルトプライズ (Hult Prize)を受賞

国際大学(IUJ)に在籍中の、4名のJDSセネガル留学生チームが、2026年5月9日に東北大学で開催された「Hult Prize Japan National Competition 2026」において「Sen Bamboo」と名付けられたプロジェクトを提案し、第3位を受賞しました。2010年に創設されたこの「[Hult Prize](#)」は、「学生のノーベル賞」とも呼ばれ、国際連合が支援している大学生及び大学院生による「持続可能な開発目標(SDGs)」に主眼をおいた世界最大規模のビジネスコンテストです。



東北大学にて

「Sen Bamboo」プロジェクトは、セネガルで竹を栽培し、それを木炭や爪楊枝などの工業製品の原料として活用することを提案しています。受賞したJDS留学生チームによると、セネガルで現在利用されている多くの木材資源の成長が8年以上かかるのに対し、竹は約3年の短期間で成長するため、資源として大きな優位性を有しているとのこと。この成長サイクルの速さは、生産効率の向上につながるだけでなく、森林破壊や土地の劣化、農村部の貧困対策にも貢献する可能性があるとのこと。

「Sen Bamboo」チームキャプテンであるバ・アマドゥ氏によると、「このコンテストを通じて、Sen Bambooプロジェクトの実現を後押ししてくれる可能性のある起業家・投資家・ステークホルダーとのネットワークを築く機会も得られました。チームは今後5年以内に商品開発及びその発売を目指しています。私たちの長期的な目標は、木炭や爪楊枝の製造にとどまらず、雇用を創出し、荒廃した土地を再生し、持続可能な経済成長をもたらすことができる全国規模の竹産業を確立することにあります」とのことです。



受賞した4名

(左から、ファイ・セリーヌ氏、バ・アマドゥ氏、ジャ・ビントゥ氏、ジョップ・バイ・ドウドゥ氏)

このプロジェクトは、国連が提唱する複数のSDGsと合致しており、環境面および経済面での将来性が高く評価されました。キャプテンのアマドゥ氏が環境生態省、メンバーのジャ・ビントゥ氏が産業省出身の省庁職員だからこそ提案できた革新的な取り組みといえます。

彼らの今後の活躍が期待されています。

活躍するJDS留学生(カンボジア・ラオス) ～ひろしま留学大使の活動を終えて～

2025年7月から2026年3月にかけて、ひろしま留学大使(HSAA: HIROSHIMA Study Abroad Ambassador)として活躍したソー・ソピア氏(広島大学大学院 人間社会科学研究科、2026年秋に修士課程修了予定、カンボジア国教育青年スポーツ省教育監査局 教育監査官)、ソーンパン・シンサウィパー氏(同研究科、2026年秋修了予定、ラオス国教育スポーツ省技術・職業教育省検査・監視・評価局 職員)にHSAAとして活動したきっかけや感想を伺いました。

◆HSAAに参加したきっかけ

ソー氏によると、日本の文化、伝統、価値観、日常生活について学びたいとの思いから、日本の行事や祭り、地域活動に参加する機会を探していたとのことでした。

ソーンパン氏によると、自身の留学経験を将来留学を目指す学生たちに伝え、広島や日本の魅力を発信したいと考え、本プログラムに参加したとのことでした。

◆主な活動内容

ソー氏:HSAAとして、学校訪問や学生支援、地域祭りへの参加、茶道や着物体験、文化交流を行いました。また、SNSで日本文化や留学生活、プログラムの魅力を発信しました。

ソーンパン氏:SNSで広島大学での学びや日本での生活・文化体験を発信したほか、広報・交流イベントを通じて地域住民や留学生と交流し、日本文化への理解と地域とのつながりを深めました。

◆活動を通じた学び・気づき

ソー氏は、「これらの活動への参加は、私の人生の中でも最も価値ある経験の一つでした」と振り返ります。活動を通じて、日本の文化や伝統への理解を深めるとともに、日本人学生や世界各国から集まった留学生との間に、かけがえのない友情を築くことができたそうです。また現在は、日本とカンボジアの相互理解と交流を促進する架け橋となることを目標に、その志を一層強くしているそうです。

ソーンパン氏は、HSAAとしての活動を通じて多くの学びと成長を実感したそうです。また、さまざまな人々との交流や情報発信を重ねる中で、コミュニケーション能力が向上し、自信を深めるとともに、より広い国際的な視野を身につけることができたとのことでした。



ソー氏:広島大学フェニックス国際センター
ミライクリエでの文化交流イベントにて



ソーンパン氏: HSAA修了式にて

【ひろしま留学大使とは？】

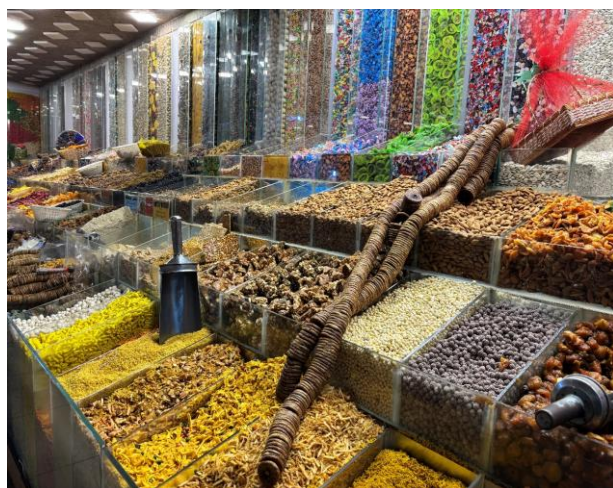
広島で学ぶ留学生たちが、「ひろしま留学大使」として広島の魅力や、留学生活の情報をSNSやWebサイトを通じて世界へ発信しています。(広島留学ポータルサイトより)



パキスタンは南アジアに位置し、インダス川流域の豊かな歴史と多民族社会の中で独自の市場文化を育んできました。街のバザールには色とりどりの商品と人々の活気があふれ、伝統的な商習慣が今も日常の暮らしと深く結びついています。今回は、そんなにぎやかな市場の風景と、そこに息づく人々の営みをご紹介します。

パキスタンの首都イスラマバードには、ドライフルーツのお店が点在しています。店頭に並ぶ商品はどれも個性的で、とりわけ目を引くのが、写真手前に見える、まるで呪具のような独特の形状をしたイチジクのドライフルーツです。見た目のインパクトもさることながら、味もしっかり濃厚です。他国のドライフルーツと比べると、パキスタン産のものはオーガニックな印象で、人工的な甘さが少ないのが特徴的です。

パキスタンでは、家庭に客人を迎える際、チャイ(紅茶)とともにドライフルーツを振る舞うことがあります。また、断食月ラマダンや、その終了を祝うイードの時期には、ドライフルーツは欠かせないおもてなしの一品として親しまれています。



JDS 3つの特徴

1

行政官限定事業

※一部例外がございます

2

6,708名 28カ国の実績

※事業終了国の人数も含む ※2025年度までの人数

3

大臣・局長級を輩出

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
バングラデシュ、フィリピン、キルギス、タジキスタン、
スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、
ケニア、セネガル、ウクライナ、モザンビーク

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間関係の強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

ネパールにおけるJDS準備調査を昨年9月から実施してきましたが、本年7月に終了しました。JICEにとっては2019年以来となる、ネパールでのJDS事業が今年8月頃から始まります。2016年から2019年までの4年間で受入れたJDS留学生は計80名に上りますが、準備調査の際に、彼らが修士課程での学びを経て帰国し、それぞれの分野で活躍している姿を見ることができ、大変うれしく思っています。

準備調査では、帰国留学生へのヒアリングを通じて、日本留学で得た知識や経験をどのように活用し、自国の発展に貢献しているのかを具体的に把握することができました。以前実施した選考時に「将来このような人材になってほしい」と期待していた姿が実際に実現していることを確認できたことは、特に大きな喜びでした。

2026年度の募集・選考は8月以降に開始される予定です。8月以降、再びネパールでJDS事業を実施できることを大変楽しみにしています。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業部広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org